



TITLE:

稠密ナル本邦人口

AUTHOR(S):

財部, 静治

CITATION:

財部, 静治. 稠密ナル本邦人口. 經濟論叢 1918, 6(1): 20-32

ISSUE DATE:

1918-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127322>

RIGHT:

稠密ナル本邦人口

財部 靜治

一

愛國ノ志氣尊皇ノ精神ヲ鼓舞策勵スルニ大坊アリシ本居翁ノ玉匣中説アリ曰ク

皇國ハ「天照大御神の御出生ましましし御本國なるが故に萬國の元本大宗たる御國にして萬萬の事異國にすぐれてめでたし」

「第一稻穀ハ人の命をつつげたまひて此上もなく大切なる物なるが其の稻穀の萬物にすぐれて比類なきを以て其餘の事

もなほ准へしるべし」總じて物の尊卑美惡はその形の大小によるものにあらずれば國もいかほ廣くても卑く惡き國あり

狭くても尊く美しき國あり」すべて外國は土地廣大にてもいづれも其の廣大なるに應じては田地人民はなほ稀少なり唐土

などは諸戎の中にてはよき國と聞へたれどもそれすら皇國にくらふればなほ田地人民も、はなはだ少くまばらにしてただ

いたつちに土地の廣さのみなりこれは彼の國の舊さにも代々の總口數、戸數を擧げたるも本朝の戸數口數をくらべて見

てよくしらるることなり」皇國は古へよりして田地人民の甚だ多くして稠密なることさらに異國には類なければ此の人數

物成を以て量るときは甚だ大國にして殊に豐饒富貴武強盛なること何れの國かはよく及ぶ者あらん」

ト唐土ヲホメ尊ミ唐土ノ書ニノミ泥ミ惑ヒ皇國ヲ看下スヲ以テ見識イト小サク卑シトセル翁ノ意

氣ヤ愛スヘク此ノ意氣ヲ示スノ一端トシテ説カレシ前説ハ當時ノ時流ヲ拔ケル人口學説トシテ又

大體ニ眞理トスヘキモノノ如シ古來稻ヲ以テ常用穀物トシ魚肉ヲ重ナル副食物トシ水田ノ稻作ヲ

以テ農作ノ要部トセル本邦經濟事情ハ自ラ人口現象ノ上ニシテ影響ヲ及ボシ狹小ノ土地ニヨリ比較的多數ノ人ハ養ハレ得ヘシト想像シ得ヘキ事由アレハナリ素ヨリ本居翁ノ史の觀察ニハ評論ヲ加フルノ餘地アルカ如ク又ソノ目的論的思索ニ對シテハ今姑ラク評論ヲ避ケント欲スル者ナリト雖モ以下少シク現時本邦人口ノ粗密ヲ考察シテ諸國トノ比較研究ヲ遂ケ右ノ所説カ現時ノ事實ニ照スモ亦大體ニ誤リナキヲ示スハ無意義ナラサルヘキヲ想フ。

二

輓近學者ハ一國又ハ一地方ニ於ケル人口ノ粗密ヲ示スカタメニ其ノ國其ノ地方ニ於ケル土地面積ヲ以テ其ノ人口ヲ除シテ得タル結果乃チ所謂密度ヲ以テスカカル比ハ諸國諸地方ニ於ケル人口確實ニ調査セラルルト共ニ土地ノ境界明確ニ定メラレ之カ測量滿足ニ遂ケラレシモノアル限り明確ニ算定サレ得ヘキ所ニシテ之カ比較研究モ亦無意義ニ非ス蓋シカカル比ニヨルモ亦ソノ地域ハ幾何ノ人ニ生存ノ途ヲ授ケ得ヘキカヲ明カニシ得ヘキハ該括的死亡率ニヨリ一ノ特定人口ニ於ケル總死亡數ヲ反映セシムルト異ル所ナケレハナリ之カタメニ又特ニ一定期間内ニ於ケル人口移動ヲ研究セントスルカ如キ場合別ニ材料ノ仔細別研究ヲ伴ハシメサルモ亦能ク密度研究ノミニヨリソノ目的ヲ達シ得ヘキ實用多キハ概括的死亡率ノ前後比較ニヨリ衛生政策ノ影響如何ヲ究メ得ヘキトソノ趣ヲ同フス現ニ又學者中ニハ右ノ實用ヲ一層一般ニ推シ及ボシ密度ノ多少ニヨリ經濟發

達ノ程度否一般開化ノ發達ヲ指示スルノ便益アリトシテ之ヲ利用スル者アリ蓋シ民衆ノ棲居地域トソノ給養地域ト全然又ハ殆ント全ク一致シ從ヒテ人口ハ元來ソノ人口所屬セル地域ニ於テ又ソノ地域ヨリ直接生存資料ヲ受クルコト假令ハ諸農國ニ於ケルカ如クナル程度ニ於テハ密度ノ多少ハ率直ニ經濟發達ノ程度ヲ指示スヘクソノ他一般ニ一般開化發達ノ程度ハ此多少ニヨリテモ測ラレ得ヘク否寧ロ開化發達ノ目的ヨリセハ密度高キコト恰モンノ條件タリ屢々又之カ尺度タリトナシ得ヘキモノアリ此コトタル特ニ特定ノ人口所屬セル地域カ主トシテソレ等民衆ノタメニ狭キ地區内ニ於ケル住居及工業行爲ニ宛テラレ必要食料ノ作出ニ宛テラルルコト少キ程度ニ於テハ特ニ適切ナレハナリ地理學者らつちえるハ開化ト人口トノ關係ヲ究メシニ當リ同一ノ見解ヲ本トシ進ミテ大膽ナル該括ヲ試ミ密度ノ多少程度別上典型視スヘキ世界諸地方概覽表ヲ編製シ開化ノ發達ト密度ノ増進ト密接ノ關係アルヲ示シソノ以前ニ一層簡單ナル總括ヲ試ミタルるわつするノ研

究ニ一步ヲ進メタリソノ所説ハ割合ニ世ニ知ラルト雖モ左ニ抄録センカ一平方哩當リ人口ハ

住民地域ノ最偏境ニ於ケル狩獵漁撈民(えすきもー)

〇・二一〇・三

草原地域ノ狩獵民(ぶっしゆ人、ばたこにあ人、漆洲人等)

〇・二一〇・五

幼稚ナル農作ヲ伴ヒ又ハ農民ニ倚レル狩獵民(印度民族、だやーく、ばぶあ、貧弱ナル黒人族、ばつあ等)

一〇一四〇

沿海及河川漁撈民(北西米人、ぼりねしあ小諸島民)

一〇〇一未滿

遊牧民

四〇一〇〇〇

初期工業交通ヲ伴ヘル幼稚農民(阿弗利加内部ノ住民、まれー群島民)

一一三〇〇

遊牧農作民（ヒンドフあん、せんない等）

西亞回々教諸國及ブーだん

農作ヲ營メル漁撈民（太平洋諸島民）

歐風農業ニヨル未開諸國又ハ歐洲中氣候最モ不順ナル諸國

中歐ノ純農業地域

南歐ノ純農業地域

農業大工業混營地域

印度ノ純農業地域

歐洲大工業地域

二一三〇〇

二一五〇〇

五〇〇未滿

二、〇〇〇

四、〇〇〇

五、〇〇〇—六、〇〇〇

一〇、〇〇〇以上

一五、〇〇〇以上

トセリ。吾人ハ本邦人口ノ地方分布型カ右印度ノ純農業地域型ニ近キモノアルヲ注意シツツ右ノ所説評論ヲ避ケ密度テウ觀念ニ歸リ一層深ク之ヲ詮議スルコトトセンニ土地ノ大サト人員トノ特殊内部關係ヲ明カニセントスルノ目的上右計數ヲ使用セントスル際ニハ大ニ注意スルノ要アルヤ之カ算定ノ基本ニ鑑ミ直チニ推知シ得ヘキ所ナリ蓋シ一國人口ノ密度一平方基米五〇人ト言フ場合之カ算定ノ基本材料中ニハ人口稠密ナル都市ト最モ不毛ニシテ人口稀薄ナル地域ト含マルルカ故ニソノ通算一面積單位當リハ複雑ナル實際事情ヲ表章スルモノトシテハ頗ル粗大ナリ言ハバ人口計數ノ書キ替エヲ授クルニ過キス真相ヨリセハ大相違ノ事實ヲ伴フコトヲ告示セサルハ總括的死亡率ト異ルコトナケレハナリ特ニカカル計算上棲居ノ地域ニモ非ス給養地域ニモ非ル土地假令

ハ陸内水面、不毛ノ山岳、砂漠、兩極地方等ヲ如何ニ處理スヘキカノ問題ハ右計數ノ使用上慎重スヘキ者ノ直チニ着想スヘキ所ナリ此事情ヲ問ハスシテ湖沼、山岳ニ富メル諸國諸地方密度ト然ラサル諸國諸地方密度トヲ比較スルトキハ誤解ヲ惹起スヘクカカル面積ニ富メル際之ヲ計算ニ容ルルト然ラサルトニヨリソノ最終結果ニ大影響ヲ及ホスヘシ山岳ニ富メル我邦、山岳以外湖沼ニモ亦富メル瑞士ニ於テハソノ面積ヲ算入スルヤ否ヤニヨリ甚タ相違セル人口密度ヲ收ムヘシ由是觀之人口分布事情ノ真相ヲ窺フタメニハ粗大ナル密度ヲ捨テテ之ヲ諸計數ニ分解シ觀察スルノ要アルヲ察知シ得ヘク又ソノ計算上ノ面積單位ハ大體ニ大ナルモノヨリ小ナルニヨルヲ可トス平方哩ニヨルハ平方里ニヨルヨリ可ナリ平方基米突ニヨルハ平方哩ニヨルヨリ可ナリト謂ヒ得ヘシ。素ヨリ一面ヨリ考フルトキハ比較ニ惹ケル總面積大ナルニ從ヒソノ間自ラ大數ノ理行ハレ一面ソノ境内ニ於ケル無人ノ地方ト人口極メテ稠密ナル地域ト計算上相殺サルルコト愈々多キヲ得ヘシトモ觀シ得ヘシサレト又國土ノ面積大ナルニ從ヒ別ニ密度ノ利用價值ヲ疑ハシムヘキ第二事由モ亦重キヲナスニ至ルコトモ注意スヘキナリ詳言スレハソノ地理的、經濟的、社會的、土俗學の事情ノ齊一形態ヲ有スル諸國諸地方ハ極メテ拙キ結果トシテ全國ノ總平均ハソノ國內ニ於ケル小行政區劃又ハ地理的區劃ノ實情ヲ穿テルモノトシテハソノ數區劃ニツキテノミ僅カニ邇眞のニ然リトスルヲ得ヘケン假令ハ我邦大正二年末乙種現住人口一平方里トシテ花房博士カソノ著帝國

人口概説中ニ示サル所ニヨルニ全國通算一、一四四人ナルカ之ヲ大行政區劃タル道府縣別計數ニツキテ察スルモ尙北海道ノ二七一人岩手縣ノ九二〇人ヨリ大阪府ノ一八、八〇一人東京府ノ二二、二三八人ニ亘リテ大差アリソノ極大ハ全國通算ノ十倍餘極小ハ一四・七%タリ一般ニ研究スヘキ地域大ナルニ從ヒソノ各地方形態モ愈々多種ナルヘク又ソノ通算計數ハ愈々實際ニ適セサルコトナルヘシ。之ト同時ニ尙注意スヘキハ人口密度ノ算定上過小ナル地域ヲ選フコトヲモ亦避クヘキコトナリ此コトタルソノ地域ヲ細別シテ無限ニ及ホセル際ソノ極端事例何タルカヲ考フルノミニテモ亦説キ得ヘキ所ナリ乃チソノ際人口分解ノ結果諸計數ハ明カニ連續性ヲ破ラルルコトナルヘシ詳言スレハソノ一定面積ハ無人トシテ表章セラレ他ノ一定地域ハソノ反對ニ人口無限ニ稠密ナルノ觀ヲ呈スヘシ統計ハ大量現象ヲ取扱フソノ本分トスルヲ以テ國土ヲ分ツニツキテモ分テル數々ノ地域ニヨリ統計的相違ノ何モノカヲ表章シ得ヘキカ如クスルノ要アルヘシ。

三

普通ノ計算法ニヨレル人口密度ニ上説ノ如キ缺點アルヨリ學者ハ之カ分解研究ノ方法ニツキ種種提議シタリ吾人ハ今之ヲ一々詮議シ收錄セントスルノ意ナシ唯本邦人口稠密ナルヲ顯彰スルノ目的一層適切ニ達セラルヘキ一算法トシテ耕地面積ト人口トヲ比較スルノ方法アルヲ指摘シ先ツ之カ概覽國際比較ヲ遂ケテ我邦ノ概況ニ説キ及ボサント欲ス。

こららど國家學字書第三版中農事統計ヲ説ケル一項中諸國ニ付上述ノ如キ比較概覽ヲ遂ケシ

ムヘキ一表アリ左ニ抄録センカ(全耕地トセルモノノ内ニハ牧場、園藝地積ヲ含ミばん材料トセルハ小麥及裸麥ナリ)

大不利類及愛蘭	(一九〇〇)	全耕地(百萬 ヘクタール)		其内ばん材料 作付地百分比	ばん材料作付 地千ヘクタール當リ人口
		七・七	一〇・一		
和蘭	(一九〇〇)	一・〇	三・四	一八・三	一八・三
白耳義	(一九〇〇)	二・〇	三・七	一八・三	一八・三
諸威典	(一九〇〇)	一	一	一八・三	一八・三
瑞典	(一九〇〇)	三・四	一八・三	一八・三	一八・三
丁抹	(一九〇〇)	二・六	四・四	一八・三	一八・三
地利	(一九〇〇)	二・〇	二・二	一八・三	一八・三
獨逸	(一九〇〇)	二・六	三・三	一八・三	一八・三
伊太利	(一九〇〇)	一・五	三・五	一八・三	一八・三
佛蘭西	(一九〇〇)	一・七	三・六	一八・三	一八・三

看ルヘシ一國カソノ國土内全耕地中、常用穀物ヲ作付クル割合狹小ナルニ從ヒ人ヲ養フコトハ
 愈々多キノ現象著シキヲソノ理由ハ深ク尋ヌル迄モナクばん材料ニ宛テタル作付面積狹小トナル
 コト實證サレ得ヘキ諸國ニアリテハ平時國際經濟交通發達スルニ從ヒ土地利用上一層周約的ナル
 諸産業ニ向フコトハ假令ハ英蘭カ工場工業ニ丁抹カ酪農ニ於ケルカ如クソノ結果ばん材料ヲ外國
 ニ仰クヲ可トスルニ至ルノ事情ニソノ主タル事由ヲ求ムヘシ。尤モ諸國經濟交通ノ全般ニ訴ヘテ
 考フルニ少クトモ經濟事情ノ重大變化ナキ限り一文明國ノ工業如何ニ無限ノ發達ヲ遂クレハトテ
 ソノ人口ノ稠密一程度以上ニ上リ得ヘクモ想像サレサル事由モ存ス一地方又ハ一國ニ於テ人口極

メテ稠密ナリ得ヘキカタメニハ海内及海外ニ於ケル他ノ地域及他國ニシテ右ノ地方又ハ國ト產物及給付ノ交易ヲ交ユルモノニ於テ人口一層否甚タシク稀薄ナルコトヲソノ條件トスルヤわゝぐな一説ケルカ如クナリト雖モ右ノ表中歐洲小農國トシテソノ名アル佛蘭西及伊太利ノ計數ト英聯合王國ノ計數ト甚タシキ徑庭アルヲ察スル際工業盛大ニシテ國外放資貨物輸出ニ富メル諸國ハ外國產食料ノ供給ヲ仰クコト愈々多クソノ人口收容力如何ニ大ナリ得ヘキカヲ想ハサルヲ得サルヘシ。而モ亦一國人口ノ粗密ヲ左右スヘキ原因ハ種々ナリ得ヘキヲ以テ特殊產業ト人口粗密トノ關係、土地ノ肥瘠又ハ農業經營ノ精粗ト人口粗密トノ關係ヲ單純ナル關係トシテ確カメントスルカ如キハ容易ナラサルコトヲ注意スヘシ以下此點ニ付少シク議セン。

國際貿易行ハルル世ニハ國土瘠薄ニシテソノ耕地狹小ナリト雖モソノ國ニ工業昌ンナルカタメニ最密ノ人口ヲ收容スルノ事實ハ存スサレト此部分の事實ヲ見テ言下ニ一般論ヲ試ミ「工業ハ農作ニ比シ人ヲ養フコト多キヲ得ヘシ」ト説キ或ハ「工業ノ増進ニ從ヒ人口ヲ増ス」ト説クハ必スシモ巧緻ナラス農業ヲ主トスル國ニ極メテ稠密ナル人口ヲ見ルコトアルト共ニ特殊ノ農業經營ハソノ人口密度トノ關係上寧ロ工業ニ類スルノ興多キ事實モ世ニ存スレハナリ假令ハ一殖民地ニ所謂貿易品作物(珈琲、茶、香料、砂糖、綿、苘等)栽培アリソノ人口密ナル場合之ヲ以テ土地豐饒ノ賜ナリトナシ得ヘシトスルモノノ地ノ米作豐穰ニシテ人口稠密ナル場合ニシカ判斷スルト聊カン

ノ意義ヲ異ニスヘシ蓋シ夫レ等人口ノ給養地域ハ大部分殖民地域外ニアリソノ土地繁榮ノ基ツク所ハソノ特產物ニ對スル世界市場ノ需用ニアリソノ需用ノ多少ニヨリ影響ヲ受クルコト恰モ工業民ニ於ケルカ如クナリ得ヘキコトアレハナリ。

土地ノ肥瘠殊ニ之ヲ左右スヘキ氣象現象又ハ農業經營ノ精粗ト人口粗密トノ關係ヲ確カメントスルカ如キハ興味アル研究ナリ又現ニ之ヲ試ミタルモノ尠カラスト雖モソノ他幾多ノ事由ハ此關係ニ共作又ハ交又スヘキ結果トシテソノ關係ヲ確カムルハ容易ナラサルヲ注意スヘシ北米合衆國ニ於ケル諸地方ノ高度ト人口粗密トノ關係ヲ察シソノ最低地ハ人口特ニ稠密ナルヲ見土地低キカタメニ豐饒ナリ從ヒテ人口密ナリトスヘキヨリモソノ土地カ沿岸諸地方タリ米國中最早ク土著サレタリトノ史實トソノ後ノ複雑ナル事物發達トニ歸スヘキモノ多カルヘシ一般論トシテ言ヒ得ヘシ土地ニ可能的豐饒アルモノノ豐饒ヲ事實タラシムルカタメニハ人ノ努力ヲ要ス從ヒテ此點ニ付人口ヲ密ナラシムルノ原因タルモノ土地ノミニ存セスシテ人ノ勤勉、穎智、體力ニ存スト。且又同等ノ土地同様ナル農業經營法ニヨリ同一定量ノ土地收穫アリトスルモ國民ノ生存欲求如何ニヨリ人口或ハ密ナリ或ハ粗ナルヘシソノ欲求低カラハ自ラ土地豐饒ナラサルモ人口密ナルヲ得ヘシ砂礫、山岳ニ富メル膠洲灣附近赤貧地方人口ノ密度獨逸帝國ト伯仲セルノ一例ヲ聞キテモ察知シ得ヘキ所ナリ。ソノ外又土地ニ可能的豐饒アルカタメニ人ヲシテ勤勉セシメ増殖セシムヘシトス

ルモ此豐穰カソノ勤勉者ソノ人ヲ利スルカタメニソノ地ニ備ハレリトスヘキ限度内ニ於テ然リ乃チソノ勤勉者ハ全ク自己ノタメニ勸カストスヘキ事情アルヘキニ非ス現ニ所有權不安ナル所住民ノ活動及増殖ヲ妨クヘキハ併合前ノ朝鮮、土耳其、あふがにすたん并ニ南米諸地方ニ於ケルカ如シ。次ニ又多クノ國ニテハ土地ノ收穫少數領主又ハ地主ニノミ歸シ多數人ハ賃銀ニヨリ衣食スルコトアリソノ際土地豐饒ナルモ是等民衆ハ何等ソノ利益ニ預ルコトナシソノ賃銀ハ勞力ニ對スル需用供給ノ如何ニ應ジ普通生計費ノ附近ヲ色々昇降スヘキモノソノ勞力ニ對スル需用ハ生産ノ種類ニヨリテ決セラレソノ種類ハ之ヲ決定スヘキ地位ニアル人々ノ意ニ適スル所ニヨリテ定マルヘシ從ヒテ一國一地方ノ社會制度、社會構成ハソノ人口ノ粗密ニ重大ノ影響ヲ及ホシ土地ノ肥瘠ニヨル影響ヲ素スコト勘カラサル場合アルヲ窮知シ得ヘシ。

以上説キ來レル所ニヨリ本邦人口ノ粗密ヲ觀シ割合ニ確カナル觀念ヲ養ヒ得ヘキ準備智識トモ稱シ得ヘキモノヲ略明カニシタリト信スルヲ以テ以下吾人ハ本邦ノ事實ニ一瞥ヲ加フルコトトセシ。

四

本邦府縣農會ニ於テ調查報告シタル材料ニ基ツキ農商務省ニ於テ調製シタル農事統計ニ誤謬ヲ伴フモ大局ノ觀察ヲ妨ケスト認メツツ之ヲ利用スルコトトセンニ大正二年（一九一三年）ニ於ケル耕

地面積田二、九四五、五九〇町三反畑二、八四九、九三七町九反（畑ハ本邦民ノ常用穀物タル米麥作付地ニ限ラサルコトヲ注意スヘシ）ソノ合計五、七九五、五二八町二反ナリ從ヒテ（一ヘクたゝる一〇〇八三町少シテ換算スレハ）五、七四八千ヘクたゝるナルヲ以テ之ヲ同年末本籍人口五三、三五六、二九五五人ニ比較スルトキハ實ニ耕地一千ヘクたゝる當リ人口九、二八二人ナリ本計數ヲ前記萬國比較ニ照スニ佛伊ノ如キ小農國ノ計數ヲ凌クコト大ナルノミナラス商工業昌ンナル英聯合王國、和蘭及白耳義并ニ林業漁業海運業昌ンナル諸威及瑞典ノ次ニ位シテ獨逸ノ上ニアリ本邦大工業ハ未タ大發達ヲ遂ケタリトスルヲ得ス常用穀物ニ對スル需用ノ大部分ハ國內ニ於テ自給セラルコトヲ考フル際本邦農業カ人口收容力ニ富ムコト大ナルヲ想ハスンハアラス人ハ好ミテ島國タル本邦地勢、人口稠密等ノ諸點ヲ舉ケ本邦ヲ以テ東洋ノ英國視セントスルモ右ノ一點ヲ舉ゲテ考察スルニ穀作衰替セル英國トハ大ニソノ國情ヲ異ニスルコトヲ知ラサルヘカラス本邦ハ右來瑞穂國ト稱セラレ現ニ又氣候風土農作ニ都合ヨキモノナシトセサルモソノ地形ヨリ察スルトキハ元來農業家ノ天國視シ得ヘキ國ニアラスソノ總面積ハ英聯合王國ニ比シ廣大ナルモ農作ニ利用シ得ヘキ面積ハ遙カニ渺シ地形上山及谷ニ富ムノミナラス水稻作ヲ偏重スルカタメニ平地特ニ谷底及急坂ノ作付上制限セラルコト多ケレハナリ素ヨリ山ニアリテハ一定ノ高度迄段階作ヲ施シソノ緩傾斜地ヲ耕地ニ利用シ又ソノ耕作上アラユル土地浪用ヲ避ケ溝渠、牆及途ノ用地ヲ省カントスルニ勉ムルアリ又將來ノ可

能耕地トシテ専門家ニヨリ見積ラルル地積ハ割合ニ廣大ナリト雖モ現況ノ下實際ノ作付地積極メテ狭小ナルハ前記大正二年ノ耕地面積カ國土總面積三八、六九八、七二五町九反(神繩縣ヲ含マス)ニ比シ一割四分九厘八毛ニ過キスソノ割合山國タル瑞士ニモ劣ルヲ見テ察知シ得ヘキ所ナリ而モ本邦人口稠密ニシテ前記計數ノ如ク多キヲ得タルニ就キテハ本邦民カ由來稻ヲ常用主穀トシ獸肉食ヲ少クシテ牧場地ノ用ヲ省キタルト共ニ農業ハ勞働周約ノ點ニ優レ人糞尿ヲ利用シテ都鄙間地人間ニ於ケル地力還元作用ヲ巧ミニシ勸ト儉、精勵ト質素トヲ以テ農民ノ二大資質トシ稻作ヲ農作ノ大宗視シタルコト重大ノ關係アルヲ想フ。此點ニ付夙ニ第十七世紀ノ前半紀末ニ歸納的研究比較研究ニ富メル大著萬法精理ヲ公ケニセシもんですきゆーカ本邦人口稠密ナルヲ以テ女出生數割合ニ多キコトニ歸セントスルノ奇言ヲ吐キ又支那ニ關スルぢゆ、あるどノ好著ヲ引キ魚肉ヲ食スルニヨルコトモアラントセルニ對シなるさすカ本邦人口稠密ノ至要原因ハ疑ヒモナク農業ニ向ケラレタル國民ノ酷苦精勵ニアリトセルハ卓見ト謂フヘシ(早稻田大學ノ前身タル東京專門學校講義錄收録内田節士日本經濟史六一、六二頁參照)ソノ外又らちゐるノ如キ農業充分ニ發達セサル所國內ノ特定地域又ハ隣國トノ國境附近ヲ無人又ハ人口稀薄トナシ之ヲ國境地帯又ハ獵區トシテ使用シ或ハ戰亂ノ荒廢ニヨリテ之ヲ作り或ハソノ地域ノ經濟的利用ヲ必要トセス又ハ必要ト想ハサルカタメニ之アルヲ寬假スルコトアルヲ認メ之ヲ以テ政治的荒地 Politische Wüste ト呼ビ本邦耕地少キモ亦國土ニ山多

* 今藏書英譯 The Spirit of Laws, tr. by Thomas Nugent, 1766 Vol. II. pp. 141. 142 ナ引用ス

キカタメトスヘキヨリモ寧ロカカル政治的理由ニ基ツク耕地制限並ニ之ト關係アル園藝の耕作ニ
 ヨルコト多シトセルモ此說ハ封建時代ノ日本ニヅキテハ兎モ角今日ノ日本ニハ當ラサルヲ想フ之
 ニ反シ本邦農業ノ勞働周約及小經營ト人口稠密ト密接ノ關係アルヲ率直ニ認メカカル農作ニヨル
 ノ事情ハ國土ノ山國タル性質ヲ説明スルノミナラス國土面積中作付地積何故ニ一小部分ニ限ラル
 ルノ顯著事實アルカラ説明スト説ケルラーどげんハ本邦事情ヲ察スルノ明ニ長ケタリトスヘク果
 シテ又カカル認識ニシテ誤リナシトセンカ現今經濟ノ發達驟々乎トシテ商工業益々殷賑ヲ告ケ一
 面國民少クトモ都市住民ノ生活標準ハ益々高マラントスルノ世特ニ又勸賞スヘキ社會的奢侈ヲ助
 長スルノ氣運民間ニ乏シクシテ野卑ナル個人の奢侈ノ風ハ戰時利得ニ沾ヘル分子ニ蔓延セントス
 ルノ時勢ニ處シ經濟政策ノ大本タル本邦人口政策又ハ之カ給養問題ヲ思索セントスル者ハ常ニコ
 ノ事實ニ鑑ミテ深ク愼慮スル所アルヘキナリ。

* Vgl. Ratzel, a. a. O. SS. 135, 142.

** Vgl. K. Rathgen, Die Japaner in der Weltwirtschaft, 2. Aufl. 1911 S. 5.